※令和４年度以降入学生用

学校番号	3021

令和５年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	地理総合	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書	「高等学校 地理総合　世界を学び、地域をつくる」(第一学習社)						
副教材等	「教科書準拠 地理総合ノート」(第一学習社)						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、世界の中の日本を常に意識し、系統別に地理的事象を学習する。
・地図帳を活用し、地名等の位置確認を行う。
・主体的・対話的で深い知識を獲得するため、自ら学ぶスキルを身に付けたうえで、グループ学習を採り入れる。

２　学習の到達目標

・地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けさせる。
・地理的な課題の解決に向けて構想する力や、構想したことを効果的に説明し、それらをもとに議論する力を養う。
・地理に関わる諸事象について、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取り組みなどを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。	地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係などに着目して、多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。	地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとすることの大切さについての自覚などを深める。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1	第1編1章　地図や地理情報システムと現代世界	1節　球面上の世界と地図 ①目的地への行き方 ②地球上の位置 ③世界の時差 ④世界地図の見方・使い方 ⑤地図から読み取る情報 ⑥デジタル化された地図 ⑦地理情報システムの活用	a:地理学習の基本的な技能として、地図の縮尺や方位に注意しながら、地図上の情報を読み解く有用性を理解する。 b:地球上の位置をあらわすために緯度・経度が定められたことと、地軸の傾きによる季節変化と時差の存在を理解し、教科書掲載の時差の計算のワークに積極的に取り組むことで、日本の標準時における諸外国の時間と生活のようすを想像することができる。 c:図書館の資料、インターネット検索などを用いて、身の回りの地図の活用事例について調べることができている。	定期考査 副教材提出	定期考査 ノート提出	ノート提出 授業態度
		２節　国家の結びつきとグローバル化する社会 ①国家の領域と国境 ②日本の領域とさまざまな領土問題 ③国家をこえた結びつき ④交通機関の発達と縮小する世界 ⑤情報・通信で一体化する世界 ⑥拡大する世界の貿易と物流 ⑦グローバル化と人の移動による結びつき	a:さまざまな情報手段を用いて、現在世界で起こっている国境・領土問題について調べるとともに、日本の領域と周辺国との領土問題にはどのようなものが存在するか、理解する。 b:単に交通・情報・通信手段の発達に目を向けるだけでなく、それらがどのように地域を結びつけ、変化させているかを地図から考えることができる。 c:インターネットショッピングを事例に、情報技術や物流、金融など、さまざまなサービスがかかわってくることを、実体験とともに考える。	定期考査 副教材提出	定期考査 ノート提出	ノート提出 授業態度

※令和４年度以降入学生用

	第2編1章　生活・文化の多様性と国際理解	①世界の生活・文化を写真でつかもう ②人々の生活に彩りを与える気候	a:世界の気候帯ごとに、どのような特徴があり、どのような生活が営まれているのかを学習する。 b:人々の生活様式の差異を通して、地理的環境が及ぼす影響について学ぶ。 c:図書館の本やインターネットから、世界の生活･文化を示した写真を探し、写真の中にある地理的環境を読み取り、世界は地理的環境の影響を受けた特徴ある景観で成り立っていることを学ぶ。	定期考査 副教材提出	定期考査 ノート提出	ノート提出 授業態度
2	第2編1章	③「衣」から見る世界 ④「食」から見る世界 ⑤「住」から見る世界 ⑥暮らしを豊かにする産業 ⑦宗教と人々の暮らし ⑧暮らしを楽しむための文化 ⑨多様性に富んだ世界の人々との共生	a:その地域の自然環境と、歴史や文化といった社会環境の影響を色濃く受けた世界の特色ある生活文化を、さまざまな衣食住の事例を通して学ぶ。 b:多様なアイデンティティを持つ世界の人々と共生していくためには、他者の文化を尊重するとともに、自らの文化を知ることが重要であることを学ぶ。 c:祭りやスポーツ、音楽などの伝統と現代社会の影響を受け、変化が見られる事例を学び、現代世界の諸事象を読み解く視点を身につける。	定期考査 副教材提出	定期考査 ノート提出	ノート提出 授業態度

※令和４年度以降入学生用

	２章　地球的課題と国際協力	１節　持続可能な社会を目指して ①持続可能な開発目標（SDGs） ②地球的課題の地理的な側面 ２節　すべての人々の尊厳と平等が守られた社会に向けて ①貧困問題 ②人口問題 ③食料問題 ④持続可能な水の利用 ⑤健康・福祉問題 ⑥教育・ジェンダー問題	a:現在、直面している地球的課題にはどのようなものがあるかに注目し、それらは相互に関連し、地域によって現れ方が異なることを、人口問題、食料問題、居住・都市問題、資源・エネルギー問題、地球環境問題といった具体的な事例を通して理解する。 b:SDGs の達成に向け、さまざまな主体による国際協力の重要性を学ぶと同時に、企業の社会的責任やエシカルな消費者としての取り組みを通して、自らの行動を見直すことができる。 c:各地球的課題について、地域性を踏まえて把握するとともにその問題の所在や解決の方向性を図書館やインターネットなどで調べ、話し合う。	定期考査 副教材提出	定期考査 ノート提出	ノート提出 授業態度
		３節　自然と調和した豊かな社会に向けて ①技術革新と持続可能な産業化 ②限りある資源 ③エネルギー問題 ④都市・居住問題	a:資源・エネルギー問題について、資源の限界性と偏在性を理解し、原子力発電を含む世界のエネルギー利用の変化と新エネルギー開発の必要性について考察する。 b:身の回りに見られる再生可能エネルギーについて、そのメリットとデメリットを比較して、持続可能な社会に必要なエネルギー構成を構想することができる。 c:持続可能なライフスタイルの実現には、さまざまな認証制度を活用した消費者としての行動が重要であることを理解し、身近な認証制度を調べ、まとめることができる。	定期考査 副教材提出	定期考査 ノート提出	ノート提出 授業態度

※令和４年度以降入学生用

		４節　現役世代と将来世代のための地球 ①地球温暖化問題 ②陸地の環境問題 ③海洋の環境問題 ５節　平和で公正な社会に向けて ①世界の民族と民族問題 ②世界のさまざまな紛争 ③さまざまな対立の解決に向けて ④国際協力とパートナーシップ	a:地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。 b:地球環境問題のうち、酸性雨・地球温暖化・森林破壊と生物種の減少・砂漠化を例に学び、世界的な取り組みと地域に応じた取り組みが必要であることを理解する。 c:国際社会の中で日本が果たすべき役割を認識し、国際協力について、グローバルに考える視点と身近な問題として考える視点を身につける。	定期考査 副教材提出	定期考査 ノート提出	ノート提出 授業態度

※令和４年度以降入学生用

3	第３編１章　自然環境と防災	①地球規模で見る地形の姿と自然災害 ②人々の暮らしを取りまく自然環境 ③変動帯の自然と防災 ④湿潤地域の自然と防災 ⑤私たちができる災害への備え	a:世界を大きく変動帯と安定大陸で分類し、多くの自然災害は変動帯で起きていることを理解する。また変動帯はプレートテクトニクスによって説明され、日本列島は４つのプレートがぶつかり合っていることを理解する。 b:地形の状態に応じて暮らしてきた日本の村落・都市立地を理解し，地形改変による生活環境の変化が人々の暮らしにどのような影響をもたらしたか考察する。また、自然災害の多い日本列島で、人々の生活に大きな影響を与える火山災害・水害・地震について、自然現象やこれまで受けてきた災害の歴史を理解するとともに、先人の知恵が詰まった、災害に備え、災害とともに暮らす生活について関心をもって考察する。 c:生活に影響を与えている気候、局地的な気候について理解し、気候によって異なった特徴を見せる生活・文化について、インターネットや周りの人から具体例を積極的に聞き出し、グループで話し合う。			

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度